

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011. 11. 28

No. 65

## 進路便りへの思い

先日新しい進路便りを各クラスのボックスに入れている際に普通科の男子生徒がすれちがいざまに「先生進路便り毎回読んでよ。頑張ってください」と言って通りすぎました。全く教えていない生徒からこのように声をかけられ、内心嬉しく思いました。

普段はこうして書いてもどれだけの生徒が読んでくれているのか、心許なく感じつつ、例え一人でも読んでくれればと私なりの思いで書き続けてきました。昨年はある担任の先生から、「多過ぎるからもう少し減らして欲しい」と言われしばらく自粛しました。つい先日は校内の紙の消費が多くなり節約をして欲しい旨職員会で話が出、少し減らさなくてはいけないのかとも考えていました。

私の進路便りへの思いは、目先の進路に関するニュースだけを書くのではなく、少しでも皆さんが**将来社会人として生きていく上で参考になればという思い**より、折々に気がついた色々な話題を提供したいと考えてきました。そもそも進路指導というものも皆さんの当面の進学先や就職先を決めるお手伝いをするだけではなく、これからの皆さんの人生における生き方等の指導も必要と考えています。これまでもPTAの会等で保護者の方から、子供から受け取り進路便りを読んでいきますとか、学校のホームページで読んでいますと言われ勇気づけられてきました。

私の書いたものを読んですぐに皆さんが変わるとは思いませんが、**何か心に響くものがあり、心の奥にしみこみどこかで思い出してもらえればありがたい**ものです。私も学生時代に読んだ本でずいぶん考えさせられたり勇気づけられたものが何冊かありました。少しでもそのような文章が書けたらと常々考えています。皆さんにも読んで面白く為になったと感じてもらえるような文章を書くよう今後も心がけたいと思っています。



## 自分に小さく枠をはめないこと

人は誰でも自分に対して、自分なりのイメージを描いています。時にはその自分のイメージを補強するかのように行動しようとさえしています。しかし自分がイメージしている自分と、他の人が自分に対してイメージしているものは必ずしも一致しないかもしれません。自分のイメージしているものがプラス思考であればまだしも、マイナス思考になったときはそれは個人にとって不幸です。

昔の同級生や教え子に何年ぶりかで行き会ったとき、ずいぶん昔のイメージと変わっている場合が少なくありません。つまり**人間は常に変わっていくもの**です。あるときに自分はこういう人間だと自分で勝手にイメージしマイナス思考で自分を小さく見てしまうのは困りものです。

自分に小さく枠をはめるのではなく、出来るだけ自分の枠を自ら広げていくようイメージしていくと人間次第にプラスに転じていくものです。「そんな難しいことは自分には出来ない」とか「自分は駄目だ」「自分は元気がない」等**自分をマイナスイメージで捉えていると良くなるものも良くなりません**。「人間気の持ちよう」とも言われます。やってみれば案外人間出来るものです。**自分に小さく枠をはめず、もっと大きく背伸びし、社会に羽ばたいていきましょう。**